

日本原子力学会核燃料部会

平成17年第一回運営委員会議事録(案)

日時 : 平成17年5月24日(火)10:30~12:30

場所 : 日本原子力学会事務局 会議室

出席者 : (順不同 敬称略)

山脇部会長、山本副部会長、安部田委員、伊東委員、大澤委員、大沢委員、来山委員、杉崎委員、萩委員、林委員、平井委員、更田委員、藤田(千)委員、仙藤殿(藤田(元)委員代理)、米田委員、和田委員

議事

1. 前回議事録確認

平成16年度第5回運営委員会議事録(案)、および第24回総会議事録(案)の内容を、資料1に基づき萩委員が紹介し、総会議事録(案)の1箇所を誤記訂正の上、本運営委員会にて了承された。

2. 平成16年度決算報告

資料2に基づき萩委員から報告された。前回の平成16年度第5回運営委員会(平成17年3月30日開催)で報告された平成16年度決算予想からの変更点は以下の4点であった。

- ・ [収入の部] セミナーテキスト売上が5,500円追加。
 - ・ [支出の部] 部会報発送費43,509円が、年度繰り越すことなく3月度で計上。
 - ・ [支出の部] 春の年会企画セッションの講師招聘費を100,000円見込んでいたが、部会予算ではなく学会の予算費目から支出されたため、支出ゼロとなった。
 - ・ [年度繰越金の部] 以上の結果、年度繰越金は61,991円増の511,323円となった。
- 平成16年度決算報告は本運営委員会にて了承された。

3. 水炉燃料国際会議(2005年)準備進捗状況報告

林委員から資料3に基づき報告され了承された。

- ・ 平成17年5月24日現在で、論文エントリーは118件、その内提出済みは70件。
- ・ 時間スケジュールはまだ未確定ではあるが大枠として以下のとおり。10月2日夕刻にRegistrationとWelcome Party、10月3日午前Plenary Session、10月3日午後から10月6日午前までTechnical Session。10月4日と5日の午後にそれぞれポスターを各々2時間程度。
- ・ 論文提出が完全ではないため締め切りを5月27日まで延長。6月1日に論文査読者用Web開設。7月14日(本運営委員会開催後に、7月12日に変更)にプログラム委員会。7月15日に口頭発表、ポスターの決定連絡。
- ・ 査読者はリストに登録されている方々だけに限定するものではなく、それらの方々がさらに適切な方に頼んでも構わない。

4. 2005年日韓夏期セミナー(3部会合同)の企画立案状況報告

山本副部会長から資料4に基づき、核燃料部会としての講演案が報告された。主な内容は以下の通り。

- ・ Plenary Sessionを山脇部会長に依頼。講演は5件(ジルカロイ関係2件、ペレット関係2件、事故時ふるまい1件)であり、講師了解もほぼ取得済み。
- ・ 講演者への正式依頼は(京大)小西先生または学会からあらためてある予定。
- ・ 韓国側との折衝進捗については、近々、先方の講演リストが来る予定。

議論の中で以下のコメントが出され、今後検討することとした。

- ・ 学会枠組みとしての日韓交流の経緯と、3部会としての(部会長間の覚書に基づく)日韓セミナーとの関係を整理する必要がある。学会がいわば形式的に3部会合同の夏期セミナーを了承したのか、あるいは3部会の日韓セミナーが学会枠組みに取り込まれたのか、あらためて状況を整理する必要がある。
- ・ 3部会の日韓セミナーも、歴史的には日韓の学会間で覚書締結して進めているものであり、もし、日本側の学会があらためて別のプロジェクトを進めているとしたら韓国側も混乱するであろう。踏み込んだ整合性の検討が必要だろう。
- ・ なお元々、この覚書は春の年会と秋の大会における日韓セミナーを対象にしていたものである。秋の日韓セミナーの準備も進めるべきであろう。まずは韓国側に対し、準備の考え方について早めに打診が必要。

・講演内容(特に講演数)について、核融合、材料部会とのバランスをとる必要がある。核燃料部会の講演数は多すぎるかもしれない。

5. 2005年日本原子力学会「秋の大会」部会企画セッションの企画立案状況報告

平井委員から資料5に基づき、核燃料部会としての講演案が報告された。講演タイトル案は「核燃料研究に果たす(独)日本原子力研究開発機構の役割」で、講師は原研またはJNCに依頼予定。具体的内容については原研またはJNCと今後協議されるとの報告であった。

議論の中で以下のコメントが出された。

・日本原子力研究開発機構の発足は核燃料分野だけに関わるものではなく、原子力分野全般に関わるもの。核燃料分野に絞っての講演は講演者にとっても難しいかもしれない。

・秋の大会の時点ではまだ発足前であり、発足後を見通した統一的な講演は困難だろう。

別のテーマの可能性について議論した結果、以下のテーマで企画することで本運営委員会の了承を得た。

[講演名(仮題)] 世界におけるトリウム燃料サイクルの研究動向

[予定講演者] 山脇部会長以下4名(山脇部会長以外は今後、承諾を得る予定)

6. 平成17年度(No.41)部会報の企画立案状況報告

藤田(千)委員から資料6-1及び資料6-2に基づき、部会報企画立案状況が報告された。従来の部会報の例に倣い、「特別寄稿」欄は学会賞受賞者に依頼し、「国際会議紹介」欄は水炉燃料国際会議や日韓夏期セミナーの内容を執筆依頼するとの方向も追加報告された。

さらに本運営委員会の議論の中で候補が挙げられた原稿案は以下の通りであった。

・特別寄稿 : IAEAから戻られた福田氏に依頼

・国際交流ニュース: 原研にいられているフランスの方に依頼

なお特に今後検討を要する目次欄は以下の原稿であり、今後も運営委員会として執筆候補者を考えることとした。

・巻頭言

・後輩に物申す(御年齢も考慮する必要がある)

・会員消息

7. 平成17年度夏期セミナーについて

安部田委員から資料7-1、7-2、7-3、及び7-4に基づき、開催日(7月7日~9日)、開催場所(鳥海温泉)、プログラム内容、申込書案、交通案内等が報告され了承された。夏期セミナー出席者リストを核燃料部会報に掲載することが前回運営委員会で原則了承されたが、本運営委員会においてその具体的な方法について、特に個人情報保護法の観点から議論された。その結果、参加登録時点で部会報掲載可否を参加者ごとに確認し、掲載に同意された方のみ氏名と所属を掲載することとした。また、掲載に同意されない方については、「他 何名」という表現などで人数のみ掲載することとした。

8. 部会HPについて

木原委員により作成された資料8に基づき、萩委員から報告された。前回運営委員会以降、運営委員会名簿更新、運営委員会議事録更新、第20回夏期セミナー案内の追加等を実施。今後も運営委員会議事録更新などを継続との内容であり、了承された。

9. 部会員への連絡の具体的な進め方について

前回運営委員会における議論を引継ぎ、萩委員から資料9に基づき、部会員への連絡の具体的な進め方についての提案がなされた。前回運営委員会での了承内容と、本運営委員会での主な提案内容は以下の通り。

<前回運営委員会了承内容>

・部会報発行回数が予算制約のために年1回に削減され、部会員との連絡が疎遠となったとの反省に基づき、部会報発行時期から半年ずらした時期に、全部会員宛にある程度まとまった連絡を行う。

・連絡手段は、平成16年度末のアンケート調査結果(注)に基づき、e-mail、ファクシミリ、郵送のうち、アンケート回答者が希望された一つの方法で送付する。e-mailとファクシミリの両方を希望された方についてはe-mailのみとし、ファクシミリと郵送を希望された方についてはファクシミリのみとする。

(注)アンケートは学会にメールアドレスを登録されていない方、すなわち核燃料部会メーリングリストに登録されていない方64名を対象に、希望される連絡手段を調査したもの。回答結果は以下の通り。

[アンケート調査結果]

アンケート調査対象 _____ : 64名

回答内容ごとの人数

| | | |
|-----------------------------|-------|-------|
| e-mailでの連絡を希望 | _____ | : 15名 |
| e-mailとファクシミリの両方での連絡を希望 | _____ | : 1名 |
| ファクシミリでの連絡を希望 | _____ | : 7名 |
| ファクシミリと郵送の両方での連絡を希望 | _____ | : 2名 |
| 郵送での連絡を希望 | _____ | : 7名 |
| 連絡は希望しない | _____ | : 5名 |
| 無回答 | _____ | : 24名 |
| アンケート葉書が返送されてきてアンケートできなかった方 | _____ | : 3名 |

<本運営委員会での主な提案内容>

- ・連絡時期は夏期セミナー後の、7月から8月頃を目処とする。
- ・連絡内容は、次年度夏期セミナー企画状況、総会議事録、及び特にアナウンス必要と運営委員会で判断された情報とする。
- ・連絡担当は、庶務担当運営委員とする。

本運営委員会議論の中で以下のコメントがあった。

<主なコメント>

- ・事務連絡のみではなく、読んでいただけるような中味のあるものにすべきだろう。部会報発行が年2回から年1回に減った経緯を考慮し、その減った1回分の内容をある程度は補うものにするべきだろう。
- ・考え方として、冬に発行するものは印刷物として出し、夏に発行するものも読み応えのある記事を含みつつ体裁は略式にして電子メール(アドレスのない一部の方には郵送等)で送付するというのではどうであろうか。
- ・夏期セミナー報告も夏に発行する連絡の方に掲載すべきかもしれない。今年については日韓夏期セミナーの報告も夏に発行する方に掲載すべきだろう。
- ・学会賞に関する記事も夏の方だろう。但し、印刷物として残らないというのは問題かもしれないが。場合によっては、学会賞関連は夏の電子メール版と、さらに冬の印刷版の2度掲載という考え方もある。但し、冬の方はある程度圧縮して。
- ・夏の電子メール版の送付方法については、以下のようになるだろう。
 - a. 部会メーリングリスト登録者、及び今回アンケートで電子メール送付を希望された方には電子メールで送付する。
 - b. ファクシミリまたは郵送を希望された方には、郵送で送付する(ファクシミリでは送付枚数が多くなる可能性があるため)。
 - c. 無回答の方なども考慮し、希望があれば夏の部会報を電子メール等で送付する旨を、部会HP、冬の部会報に継続して掲載しておくべき。
- ・夏の「電子メール版」は、むしろ部会HPに掲載しておき、そのアドレスを電子メールで通知する方法も考えられる(郵送希望の方には当該HPのハードコピーを送付)。次年度夏期セミナー企画状況は、第二回運営委員会後速やかにHPに掲載し、そのことだけでも電子メールで早く連絡しておくべきかもしれない。
- ・夏の「電子メール版」は概要的、概略的なものとし、フルペーパーは冬の本格的な部会報に掲載することも検討すべき。例えば、夏期セミナー報告、国際会議紹介などはそうだろう。内容はダブってもいいということにしよう。

以上の議論の結果、夏の連絡も、簡略化したものではあっても「部会報」という位置付けとし、その内容と連絡の具体的検討と実施は、庶務担当運営委員と連携しつつ広報担当運営委員に委ねることとした。なお、発行は8月～9月頃を目処とする。

10. 「部会等運営委員」の推薦依頼への対応協議

菫委員から、資料10-1「日本原子力学会組織改革趣意書(案)」、資料10-2「日本原子力学会細則」、及び資料10-3(企画委員会などの規程類の抜粋)が紹介され、現在の企画委員会が、企画委員会と部会等運営委員会よりなる企画グループに改組される方向になっていることが報告された。さらに、その改組に伴い、企画委員長から各部会に対し、「部会等運営委員」推薦(1名)の依頼が来ている旨が報告された。依頼の趣旨としては、部会等運営委員は部会長または部会の意志を代表される方という条件であり、任期は今年7月から原則3年であるが部会都合による途中交代は可能とのことであった。

山脇部会長から、現在の企画委員会の核燃料部会担当委員である名古屋大学長崎教授とのコンタクト状況が紹介され、長崎教授が核燃料部会員ではないことなどから、結果として長崎教授に部会等運営委員をお願いできる状況ではない旨が報告された。

本運営委員会での協議において、まず、山本副部会長にお願いするとの案が出たが、まだ核燃料部会運営委員会に参加して日が浅いため、日数を経て然るべき時からということとなった。最初は山脇部会長に就任いただくことで、本運営委員会の了承を得た。

学会事務局への推薦の回答は庶務担当(菫)から行うこととした。

11. その他

(1) 「核燃料技術基盤の高度化」研究専門委員会の設立準備状況報告

山脇部会長から、掲題の研究専門委員会設立の背景が報告された。永年継続の核燃料関係の専門委員会を発展的に組みなおし設立するものであり、核燃料部会としても研究専門委員会への協力が主な事業の一つとなっており、今後積極的にバックアップしていく旨が報告された。

続いて更田委員から、設立準備の詳細状況が報告された。今月(5月)の企画委員会で受理され、本日(24日)の理事会で承認予定である。主査は[原研]石島センター長。幹事団は、従来の核燃料関係の専門委員会で幹事を務められていた方を中心に固めているところ。委員も従来の専門委員会の委員の方を念頭においているが、これから若手参加の可能性も含め各所属機関に問い合わせる予定。具体的な活動についても他の活動との連携を図って活発化していきたい。

(2) 日中科学技術交流協会主催の講演会について

山脇部会長から、中国の原子力事情に関する講演会(6月29日開催。日中科学技術交流協会主催)への共催または後援の提案がなされた。講演予定者は原産/永崎隆雄氏であり、当講演は元々、昨年または一昨年の秋の大会で核燃料部会企画セッションの講演として予定されていたが永崎氏の体調都合で取りやめとなっていたもの。関東・甲越支部にも共催または後援をお願いする予定。

本運営委員会で協議した結果、核燃料部会として共催することとした。ただし、名義上の共催とし、共催金の分担は行わないこととした。

今後の予定

- ・平成17年度第2回運営委員会 夏期セミナー時 7月7日昼
於：鳥海温泉「遊楽里(ゆらり)」
- ・平成17年度第3回運営委員会、及び会員総会 平成17年秋の大会時
於：八戸工大

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)